

## 第10回 県民公開講座 ガンフォーラム

### ～知っておこう～抗がん剤治療の知識

#### 上田先生への質問

##### Q1.

濾胞性とびまん性の違いがよく理解できません。その原因と対処方法について教えてください。

##### A1.

悪性リンパ腫は、“リンパ球の癌”であり、もっと平たくいえば“リンパ節の癌”であることは先日述べたとおりです。

その悪性リンパ腫もいくつかの種類に分けられており、まずホジキンリンパ腫と非ホジキンリンパ腫に分けられます。日本で多いのは非ホジキンリンパ腫です。その非ホジキンリンパ腫も大きく濾胞性リンパ腫とびまん性リンパ腫の2つに分けられます。

この2つの分類は、基本的に病気であるリンパ節を顕微鏡でみた感じ（形態学的な特徴といいます）が違うために分けられました。

この2つの分類は顕微鏡でみた感じが違うだけでなく、病気の進行のスピード、抗癌剤治療の反応性など様々な点が異なっており、同じ悪性リンパ腫といっても違う病気としてとらえるのがよいと考えられています。発症の原因については他の多くの癌と同様にわかっておりません。

この2つの特徴ですが、びまん性リンパ腫は進行が速いという特徴があります。抗癌剤はよく効くことが多いですが（抗癌剤は一般的に進行が速い癌によく効くという特徴があります）、効きが不十分であれば、早晚効かなくなると命にかかわってきます。予後としては、抗癌剤が十分に効いて治癒することも多いかわりに、十分に効かなければ早い段階で命に関わるような状況となってきます。

一方、濾胞性リンパ腫は進行が遅いという特徴があります。また抗癌剤は不十分にしか効かないことが多いのですが、不十分にしか効かなかったからといってすぐに病気の部分が大きくなっていくこともありません。抗癌剤が十分に効かず治癒することは少ないかわりに、“有病生存”といって直ちに命にかかわることはなく、病気とつきあいながら長く生きていくことができるため予後は長いという特徴があります。

びまん性リンパ腫の場合には治癒を目指して病気の部分が完全になくなるのを目指して抗癌剤の治療をしていくということになります。

一方、濾胞性リンパ腫の場合は、抗癌剤治療はある程度病気の部分が大きくなってから治療を開始し、ある程度以上縮小が得られたら治療を中断し、経過を観察します。わずか残った病気の部分をなくそう

として躍起になって治療を継続しても、それ以上は効かず副作用が蓄積するため長い目でみると損だからです。何年かしてまた病気の部分が大きくなってきたら再度治療を再開して縮小が得られたらまた治療を中断、という具合に治療を継続していきます。どこかで最初の抗癌剤治療が効かなくなったら、抗癌剤治療の“メニュー”をかえて（違う抗癌剤を使って）治療をしていくことになります。

## Q2.

国立がん研究センターのホームページに「濾胞性リンパ腫の標準治療は確率していない」と書いてあります。現在受けている治療は、有効だと思いますが、標準治療と認定されるためには、どのような条件を満たせばよいのでしょうか？

## A2

濾胞性リンパ腫の治療を考えるにあたっては、濾胞性リンパ腫の特徴を知ることが大切です。そのあたりは Q1 でお答えしておりますので、読んでいただければと思います。

最初に「標準治療」というのは、「最初にこの治療を選択すれば、他の治療で始めるよりも長く生きられる」ということが確定している治療が「標準治療」ということになります。

濾胞性リンパ腫は Q1 にお書きしていますように、“ほどほどに小さくなればよし”なのです。最初の抗癌剤治療が効いているあいだは、悪くなればその治療を行っていきます。最初の治療が効かなくなれば別の抗癌剤治療に替えていきます。あくまで治療の目標はある程度腫瘍が縮小すればよしという考え方です。結局濾胞性リンパ腫に使われるすべての抗癌剤治療が効かなくなったら命に関わってくるということなのです。

濾胞性リンパ腫に対して主に用いられる抗癌剤の治療として

CHOP 療法、Bendamustine 療法、FND 療法などがあります。最近では抗体療法である R（リツキサン）と組み合わせて用いることも多く、R-CHOP 療法、R-Bendamustine 療法、R-FND 療法などといわれたりします。もちろん R（リツキサン）も単独でリツキサン療法として選択されたりします。

これらの治療のうち、ある治療がいちばん病気の部分を小さくすることができたとしても、それが標準治療ということにはならないのです。結局命に関わる状態となるまでが一番長くなる治療は何なのかという難しい問題なのです。いろいろな治療が効かなくなって初めて命に関わることになるわけですので、「何の治療で始めても結局はたいして変わらない。」可能性もあるのです。

したがって濾胞性リンパ腫に対する“標準治療”を確定するためには、長い年月をかけて調査（臨床試験）が必要となります。現在もそれを確定する取組の最中ですが、その調査の最中にも新しい抗癌剤が出てきたりするため（好ましい状況ですが）、なかなか確定していないという現実があります。

Q3.

体の免疫力を高める方法について、①規則正しい生活②適度の運動③偏らない食事④強いストレスのない生活のほかに何かあるのでしょうか？

A3.

体の免疫力を高める方法について、テレビ等ではいろいろとまことしやかに報じられていますが、証拠をもってこれがいいということはほとんどないのが現状と考えられます。

一般常識から考えて、質問者様も書かれておられるように何事においても“適度な”状況が好ましいと考えるのは普通の考え方です。

“適度に”規則正しい生活 “適度な”運動 “適度な”食事

“適度な”ストレスのある生活 “適度な”笑いのある生活

などがいいのでしょうか。

ではどの程度が“適度な”のかということになりますが、誰にもわからないのが現実でしょうか。御自身で考えて自分が心地よい生活が毎日送れる程度が“適度”ではないでしょうか。

マスコミの情報も“適度に”受け流しながら、快適な生活を送られたらよいのではないのでしょうか。